

2017年11月1日

報道関係各位

慶應義塾大学 SFC 研究所  
株式会社有隣堂

## 慶應義塾大学と株式会社有隣堂の共同プロジェクト 読書のコツや楽しみ方を言語化した『Life with Reading』を制作

慶應義塾大学 井庭崇研究室と株式会社有隣堂は共同で、読書のコツや楽しみ方をまとめたランゲージ『Life with Reading』を制作しました。『Life with Reading』は、読書のコツや楽しみ方、そしてこれからの時代で求められる「創造的読書」（クリエイティブ・リーディング）の考え方を言語化し、27個の言葉にまとめたものです。

本成果の詳細は、11月9日（木）にパシフィコ横浜で開催される第19回図書館総合展のフォーラム（13:00～14:30：株式会社有隣堂主催フォーラム）において発表・紹介します。会場では『Life with Reading』の一部を掲載したカードをフォーラム参加者に限定して配布します。

『Life with Reading』を用いた読書推進は、これまでとは全く異なる視点からの新しいアプローチであり、図書館・学校教育などの現場でも創造的読書を促す非常に有効な手段となるはずです。ぜひご紹介・ご取材ください。

### □ 読書のコツと楽しみ方の共有

さまざまなメディアが生活のなかで用いられるようになった現在、「本が読まれなくなった」「本が売れなくなった」という声をしばしば耳にします。本というメディアの存在が、以前とは変わってきているのは事実でしょう。他方で、本を楽しみ、本を活かし、本とともに暮らしている人も多くいます。もしかしたら、本を読むということについて「楽しんでる人」と「馴染みがないままの人」に、大きく二分化してしまっているのかもしれない。

そこで、慶應義塾大学 井庭崇研究室と株式会社有隣堂は共同で、本を読むコツや楽しみ方を共有する新しいアプローチの研究に乗り出しました。その結果、次の3つの内容からなる成果が生まれました。

1. 【読書のコツ】
2. 【読書の楽しみ方】
3. 【創造的読書】

それぞれのテーマについて、9つの言葉（ワード）がつけられました。

1つ目の【読書のコツ】には、例えば、「本を読む時間がなかなかとれなくて、読むことが後回しになってしまう」という問題に対して、「本を読む時間を、自分のスケジュールに組み込み、明記する」というコツがあります。人に会うことや会議などと並んで、本を読むことが予定の一つであると捉えることで、読む時間が確保しやすくなるのです。このコツには、《本との先約》という言葉がつけられています。このような言葉があることで、読書がよりよく実践できるようになるだけでなく、他の人とも語りやすくなるのです。

2 つ目の【読書の楽しみ方】の例には、「本のなかに出てきた美味しそうな料理を実際につくってみたり、本のなかに出てきた場所へ実際に行ってみたりする」という楽しみ方が、《本がきっかけ》という言葉でまとめられています。読書と生活が分離されているのではなく、つなげることで本を読むことがさらに楽しくなります。

3 つ目の【創造的読書】では、これからの時代における読書はどのようなものかということが、「創造的読書」(クリエイティブ・リーディング)という方向性でまとめられています。例えば、本を読むときに、著者の意図とは離れて、いま自分が考えていることや取り組んでいることの《発想の素材》として活かすという読み方が紹介されています。また、本のなかに未来の萌芽を見出し、その《未来のかけら》を集めて、未来ヴィジョンをつくるという読み方も、創造的な読み方と言えます。このような創造的な読書のあり方が9つ提案されています。

## □ 読書推進の新しいアプローチ

今回制作した『Life with Reading』は、これまでの読書推進の方法とは異なる新しいアプローチをとっています。それは、読書のコツや楽しみ方を「言語化」して、それについて考えたり、実践したり、コミュニケーションしたりすることを支援するというアプローチです。この新しくつくられた言葉によって、自分なりに読書について考えたり、他の人と経験を語り合ったりすることが可能になります。

このアプローチの背景には、「パターン・ランゲージ」という方法があります(詳しくは、補足にて後述)。パターン・ランゲージは、実践のコツを言語化したもので、これにより、自分で考えたり、他の人とコミュニケーションを図ったりすることがしやすくなります。個々のパターンには、どういう「状況」のときに、どのような「問題」が生じやすく、それをどう「解決」すればいいのかの経験則がまとめられています。今回の成果では、【読書のコツ】はパターン・ランゲージとしてつくられています。

また、パターン・ランゲージの考えをもとにした、楽しみ方を言語化する「ファン・ランゲージ」という言語化方法もあります。今回の【読書の楽しみ方】は、ファン・ランゲージとしてつくられています。

さらに、同じくパターン・ランゲージの考えをもとにしたもので、新しいコンセプトを言語化する「コンセプト・ランゲージ」という言語化手法もあります。今回の【創造的読書】は、コンセプト・ランゲージとしてつくられています。

つまり、今回制作した『Life with Reading』は、次の3種類のランゲージの組み合わせで構成されていることとなります。

1. 【読書のコツ】のパターン・ランゲージ
2. 【読書の楽しみ方】のファン・ランゲージ
3. 【創造的読書】のコンセプト・ランゲージ

このような構成になっているのは、「本を活かし、楽しむ」ということには、いくつかの側面があるからです。本をうまく読めるようになることは、パターン・ランゲージが支援します。また、本を楽しく読むための支援は、ファン・ランゲージが得意とするところです。そして、これからの時代の読み方については、コンセプト・ランゲージが視点を提供し、実

践の支援をします。このように、いくつかの側面から読書の活かし方・楽しみ方について共有し、実践と対話の支援をする。これが、本成果の目指しているところなのです。

## □ 成果の発表とカードの限定配布

『Life with Reading』は、11月9日（木）にパシフィコ横浜で開催される第19回図書館総合展の以下のフォーラムにて紹介・発表するとともに、その一部をカード化したものをフォーラム参加者に配布いたします。

日時：2017年11月9日（木）13:00～14:30

事前予約の方は12:30～

（当日参加の方は入場までお待ちいただくことがございます）

場所：パシフィコ横浜「第19回図書館総合展」 展示会場内 特設フォーラム会場

フォーラム：株式会社有隣堂

慶應義塾大学×有隣堂 「読書と本の楽しさを伝える新しいツール」

井庭 崇（慶應義塾大学総合政策学部 准教授）

渡辺 泰（株式会社有隣堂 経営企画本部 社長室 室長）

詳細：<https://www.libraryfair.jp/forum/2017/5958>

※参加無料です。こちらのURLより参加登録をお願いいたします。

<https://questant.jp/q/yurindo-pattern>

**Life with Reading**  
創造的読書  
Concept Language

発想の素材  
スタイルの継承  
勇気の源泉

別の可能性  
本のデザインから  
考えの型

つくる人生  
世界の流れ  
未来のかけら

有隣堂 × 井庭研

### 発想の素材

何かをつくっているときに、いまいち新しさや深みが足りないと思うことがしばしばあります。そういうときは、本を手にとってパラパラとめくって眺めてみたり、関係するところを読でみたりすることで、新たなアイデアや発想につながる場合があります。

本に書かれている内容を理解するために読むのではなく、自分がいま取り組んでいることに対する発想を得るために読むのです。これが、「発想の素材」として本を捉えるという、創造的読書の根本にある考え方です。

### 本との先約

日々の生活のなかで、本を読む時間がなかなか取れないという人は多いかもしれません。読もうと思っている本があっても、他の予定に押されて後回しになってしまうがちです。

そこで、本を読む時間を自分のスケジュールに組み込み、手帳にも明記します。他のやるべきことと並んで、本を読むことをひとつの先約として捉えることで、本を読む時間が確保できるようになります。

### 本がきっかけ

本のなかには、美味しそうな料理が出てきたり、魅力的な場所が出てきたりするものです。主人公が食べていたあの料理を実際に味わってみたい！舞台となったあの場所に行ってみてみたい！

本がきっかけとなって、実際にその料理をつくってみたり、その場所に行ってみたりすることは、自分の世界と本の世界が重なり合う特別な体験となります。

## □ 補足：パターン・ランゲージとは

パターン・ランゲージは、建築家クリストファー・アレグザンダーが提唱した知識記述の方法です。アレグザンダーは、町や建物に繰り返し現れる関係性を「パターン」と呼び、それを「ランゲージ」（言語）として共有する方法を考案しました。彼が目指したのは、誰もがデザインのプロセスに参加できる方法でした。

つくる人と使う（住む）人を分断するのではなく、使う人がつくるプロセスに入り、その後も自分たちで改善していけるようにすることが、いきいきとした街や建物を生み出すために不可欠だと、アレグザンダーは考えたのです。ある「状況」で生じる「問題」をどのように「解決」すればよいのかという実践的な知を記述するパターン・ランゲージの方法は、ソフトウェア開発や創造活動一般を支援する方法として広がっています。

慶應義塾大学 井庭崇研究室は、パターン・ランゲージの方法を創造的な人間行為の支援に応用し、国内外で先導的な立場で研究・実践を進めています。これまでに制作した主なものとしては、「ラーニング・パターン」、「プレゼンテーション・パターン」、「コラボレーション・パターン」、自分らしい進路選択をするための「未来の自分をつくる場所」、認知症とともによりよく生きるための「旅のことば」、企画・プロデュース・新規事業を行うための「プロジェクト・デザイン・パターン」、主体的・対話的で深い学びを育むための「アクティブ・ラーニング・パターン《教師編》」などがあります。書籍として出版された『プレゼンテーション・パターン』は2013年度のグッドデザイン賞を受賞、書籍およびカードとして出版された『旅のことば』は、2015年度の認知症フレンドリーアワード大賞およびグッドデザイン賞を受賞しています。

井庭研究室では、パターン・ランゲージの方法から着想を得た新しい言語化方法についても研究しており、本成果『Life with Reading』で用いている「ファン・ランゲージ」と「コンセプト・ランゲージ」の方法もその一環で考案された方法です。

\*ご取材の際には、事前に下記までご一報くださいますようお願い申し上げます。

\*本リリースは新聞各紙社会部、web ニュース等に送信させていただいております。

---

### 【このプレスリリースに関するお問い合わせ先】

慶應義塾大学 井庭崇研究室 「Life with Reading」プロジェクト

E-mail: [lifewithreading@sfc.keio.ac.jp](mailto:lifewithreading@sfc.keio.ac.jp)

### 【図書館総合展 有隣堂主催フォーラムに関するお問い合わせ先】

株式会社有隣堂 社長室（広報担当）

TEL: 045-825-5562 ※受付＝平日（午前9時～午後5時）

E-mail: [k-shimura@yurindo.co.jp](mailto:k-shimura@yurindo.co.jp)

### 【配信元】

慶應義塾大学 湘南藤沢事務室学術研究支援担当

TEL: 0466-49-3436 FAX: 0466-49-3494

E-mail: [kri-pr@sfc.keio.ac.jp](mailto:kri-pr@sfc.keio.ac.jp)